



水と緑 人のいきかう 高島市

広報 たかしま Takashima

2007
6.1
平成19年
No.44

全国から高島へ そして、世界をめざす!



●特集 ②-④ 中央分水嶺 ・高島トレイル

- 5-7 タウンピククス
- 8 みんなで5・7・5
- 9 市長日記・省エネ長者作戦
- 10 まちなタ写真館
- 11 健康生活していますか?
- 12 びょういんだより
- 13 教育委員会 information
- 14 国保年金あらかると
- 15 情報おしらせ版
- 16 そうだ図書館に行こう♪
- 17 窓口・納税
- 18 歴史散歩

[5月5日 JCF箱館山ジャパンシリーズJ1大会で]



広報たかしま
(平成19年6月1日刊)

第44号

発行／高島市 編集／企画部秘書広報課
〒500-1000 滋賀県高島市新旭町北畑ののの番地

TEL 077-321-0130

http://www.city.takashima.shiga.jp
mailto:t-info@city.takashima.shiga.jp

高島市

歴史散歩

No.30

高島市・芭蕉の句碑めぐり

江戸時代中期に、さび・しおり・かみで示される幽玄閑寂の蕉風俳諧を確立するとともに、生涯にわたって旅を続け、数多くの俳句や紀行文を残した松尾芭蕉は、近江(滋賀県)の風光と人々をこよなく愛し、たびたび近江を訪れ、滞在していたことが知られています。このため当然のことながら、近江には多くの門弟が生まれ、さまざまに活躍していたことがうかがわれます。



▲白鬚神社境内の句碑

こうしたことから、近江国内には、芭蕉の門弟や、後の時代に芭蕉の俳風を慕う人々によって、多くの句碑が建立されています。高島市内にも、いくつかの芭蕉句碑が残されていますが、実際に、芭蕉が高島の地を訪れて俳句を詠んだという記録はありません。白鬚神社境内に建つ「四方より花吹入れて 鳩の湖」の句碑は、安政4年(1857年)に、俳句・和歌・俳画・茶道・華道など多くの道に精通し、青年の指導にあたったとされる森甚右衛門(1832~1916年)が建立したものです。甚右衛門自身も諸国の俳人を訪ね、多くの俳句を残しており、新旭町太田の西方寺境内には甚右衛門の句碑が建てられています。また今津町浜分には芭蕉の「今



▲今津町浜分の句碑

日ばかり 人も年よれ はつ時雨」の句を刻んだ自然石の碑が残されています。この句は、芭蕉が元禄5年(1692年)10月に彦根の門人・森川許六のもとを訪ねたときに詠んだものであり、おそらくは、芭蕉を師とする門人の流れをくむ人たちによってこの句碑が建てられたものと考えられます。また、野田の妙楽寺境内には「先たのむ 椎の木も有 夏木立」の句碑が建てられています。(文化財課)



より色濃く、より鮮やかな緑に、つい見とれてしまいます。(くつきの森で)

編集後記

▼ひと雨ごとに、緑が色濃く、より鮮やかに色づいていきます。「久しぶりに裏山でも散策してみようかな。」そんな気分がさしてくれそうです。▼今月の表紙は5月4日から6日にかけて行われたJCF箱館山ジャパンシリーズJ1大会のダウンヒルレースの様子をご紹介します。山頂から山麓までの約2kmのコースを4分足らずで一気に駆け降りるダイナミックなこのレースで、100分の1秒に懸ける選手の姿に手に汗握ります。高島を舞台に毎年開催されているこの大会には、世界を目指すトップアスリートも参戦しています。高島の地からオリンピック選手が…そんな期待に胸が膨らみます。(広報担当O)

